

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
子どもの保健 I Child Health I		1年	通年	水曜日・2時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
4単位	講義	選択 (保育士養成課程必修)		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
長谷川久美子	非常勤 講師室	授業中に指示します	授業中に指示します	
授業の概要				
少子化が進み、子どもを取り巻く環境が激変している中で、子どもの健康と安全の確保は最優先課題である。子どもの心身の健全な発育発達を支えるためには、養護や保育、幼児教育の知識に加え、病気や障害を持つ子ども達に対する理解や対応など、医療知識を含めた幅広い領域の基礎的な学びが必要不可欠である。さらに、個々の子どもの心身の状態や発達の過程を踏まえて行う保健的対応、及び子ども集団全体の健康と安全について理解を深め、現代社会の健康問題や課題についても考える。				
授業の到達目標				
①子どもの心身の健康の維持・増進を図る保健活動の意義を理解できるようにする。②子どもの身体発育や生理機能及び運動・精神機能の発達と保健について理解できるようにする。③子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。④子どもの精神保健とその課題について理解できるようにする。⑤保育環境及び衛生管理並びに安全管理について理解できるようにする。⑥施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解できるようにする。				
授業の方法				
講義、保健関連の最新情報、事例紹介、ニューストックスなどを取り入れて知識の習得を図る。				
学習の成果				
①子どもの発育発達に関する理論を学び、小児各期の形態や機能的な成長発達の特徴を説明することができる。②子どもの保健領域は、養護、福祉、保育、看護、教育など多分野に亘り、子どもの発達支援や生活支援につながることを理解することができる。③子どもの特性や心身の健康状態を適切に把握することが、病気や異常の早期発見につながり、看護・医療分野の基礎的な知識を学ぶことができる。④子どもの健康が、家庭や地域社会と密接な関係があることを理解することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (シラバスに沿って概要説明)			
第2回目	子どもの健康と保健の意義	保健活動		
第3回目	健康の概念と健康指標	「健康の定義」と子どもの健康		
第4回目	人口動態統計からみた子どもの保健			
第5回目	地域における保健活動と児童虐待防止			
第6回目	子どもの発育・発達			
第7回目	生物としてのヒトの成り立ち	発育・発達の原則		
第8回目	身体発育とその評価	小児期各期の身体発育		
第9回目		発育の評価法	身体発育基準	
第10回目	生理機能の発達	生命現象		
第11回目	脳・神経機能			
第12回目	体温調節・呼吸・循環機能 その他			

第13回目	運動機能・精神機能の発達	運動機能の発達とその方向性	
第14回目	乳児期・幼児期・学童期の運動・精神発達		
第15回目	まとめと試験		
第16回目	子どもの病気と保育		
第17回目	子どもの健康状態の把握	健康観察	
第18回目	子どもの病気の特徴		
第19回目	感染症	感染症とその予防	
第20回目	感染症予防法と感染症の分類		
第21回目	予防接種		
第22回目		ウイルス感染症	細菌感染症
第23回目	先天異常	遺伝病と環境	
第24回目	免疫とアレルギー疾患		
第25回目	子どもの主な病気	系統別疾患	
第26回目	子どもの主な病気	系統別疾患	
第27回目	子どもの精神保健	子どもの生活環境・心の健康とその課題	
第28回目	保育環境と衛生・安全管理	保育環境整備	子どもの事故とその対策
第29回目	健康及び安全の実施体制	母子保健対策と保育	
第30回目	まとめと試験		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		20%	授業で使われる教材を準備をして授業に臨んでいる。授業に集中し、ノートをきちんととる。不明な点は積極的に質問したり、自分の考えを明確に述べる事ができる等々。
レポート		20%	詳細に課題を探索し、内容構成もしっかりしており、課題の要件を満たしている。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		60%	学習の成果は、学期末試験の評価基準C (60~69) 以上とし、子どもの健全な成長発達過程において必要な知識・技術について理解できている。
発表内容 (態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
教科書：「子どもの保健 I」 佐藤益子編著 ななみ書房 参考図書・参考資料：授業の中で適宜指示またはプリント配布			
履修上の心得・ルール			
始業時間を守り、目的意識・課題意識を明確にして授業に臨む。			